

# ～「ここすき」学びの記録～ 「もっと、もっと、高くしたい！」

\* Dさんは、自分の体の半分以上もある、大きな重い積木を箱の中に入れてようとしています。短い積木はぴったり収まったのですが、長い積木はうまく入りません。どうするでしょうか？

1) 「この積木も箱に入れよう！」



2) 「あれ？長すぎて入らない…」



3) 「じゃあ、こうやって置いてみよう！」



4) 「こうすれば、もっと高くなる！」



5) 「もっともっと高くできる！」



6) 「やった！」見守っていた先生と喜び合います。



積木が箱にうまく入らなかった時、Dさんはあきらめて投げ出すのではなく、それを「積み重ねる」という新たな目標を見つけ出し、その目標に向かって集中して取り組んだのです。

長い積木も、短い積木も、全部積み重ね、それ以上重い積木を積み重ねられない地点に達しても、Dさんは満足することはありません。「もっと高く！もっと高く！」という思いが体の中からあふれてきます。

周囲を見回すと、緑色の小さな牛乳パック積木がありました。これなら軽いので、積み重ねられそうです。でも、とても不安定。慎重に積み重ねて、ついに自分の身長よりも高いところまでも積み重ねることができました！「やったー！」Dさんの挑戦を見守っていた先生といっしょに喜び合いました。

Dさんの遊びを見ていると、1～2歳児が遊びを通してさまざまな能力を伸ばせる理由がわかります。自分で「やりたい」と思ったことは困難を乗り越えてやりぬく気持ち、失敗しても別の方法を考え出せる柔軟性、何よりも、「もっと！もっと！」と、つねにより高く、より大きく、より難しいことへと挑戦する気持ちがあるからです。

みずから「もっと高いところ」へ向けて育とうとするこの気持ちを応援すること。それこそが、この時期の子どもに大人ができるもっとも大切なサポートであり、それさえできれば、このエピソードのDさんのように、子どもは大人の想像を超えた挑戦を行い、大人の想像を超えて成長していくのです。